

市場予測・将来展望シリーズ ～ Next Generation Eco-car

2017年版 次世代エコカー市場・技術の実態と将来展望

—スマートモビリティ ～ 次世代エコカー市場（ZEV）実態／予測・インフラ設備・蓄電池 —

Sample

株式会社 日本エコノミックセンター

編集 スマートエネルギーグループ

Copyright JAPAN ECONOMIC CENTER CO., LTD.

はじめに

全米の環境規制の流れを先導してきた米カルフォルニア州（加州）が、電気自動車（EV）を中心とする「ZEV（排ガスゼロ車）」の販売を促進する政策によって自動車産業の歴史を塗り替えようとしています。厳しい規制基準の設定で、自動車各社はEV開発強化を急いでおり、次世代エコカーの主演の座をめぐる競争が激化しています。

一定比率以上のZEV販売を義務付ける加州の規制は、2000年代、ハイブリッド車（HV）に強みを持つトヨタ自動車やホンダの米市場での躍進につながりました。しかし18年モデルからの改正では通常のHVはZEVから外れ、自動車大手はEVなどの販売を急激に増やす必要に迫られます。

加州のほか、ニューヨークなど環境意識の高い9州も同様な規制強化に動きます。自動車メーカーは25年までに、全販売台数のうち加州で22%、他の9州で15%をZEVにする必要があります。しかも2018年モデルからは、充電機能がついたプラグイン型ではない従来のHVはZEVと見なされなくなります。

また、ZEVのうち燃料電池車（FCV）はインフラが未整備な状態です。現実的には自動車大手はEVを販売した上で、足りない部分はガスの排出枠（クレジット）を買う形で穴埋めすることになります。そのため消費者が支持する価格と魅力を兼ね備えたEVの開発が不可欠となります。

本レポートの第Ⅰ章では、次世代エコカー市場の動向や予測などを、車種別に世界・国内市場に分類して調査・分析しています。第Ⅱ章では、次世代エコカーの充電インフラ（充電器）についてタイプに分類、市場予測や最新動向を掲載しています。第Ⅲ章では、次世代エコカー用デバイスの動向と市場予測、リチウム二次電池の材料市場、エコカー用電子部品市場、最新動向などについて掲載しています。第Ⅳ章では、水素インフラ（水素ステーション）について、市場予測や最新動向を掲載しています。第Ⅴ章では、次世代エコカーに関連した自動車メーカー、充電器メーカー、車載二次電池メーカーの出荷台数・金額の推移予測や事業動向などを掲載しています。

弊社は本年、創立50周年を迎える市場調査・マーケティング会社です。本レポートは、専門の編集スタッフにより調査・編纂されております。将来展望シリーズは、新規参入を検討されている企業様を含めた事業計画の立案、予備調査、事業計画書の作成・展開など、幅広く活用されています。

平成28年12月
株式会社 日本エコノミックセンター 市場調査部
スマートデバイスグループ

☆☆☆ 目 次 ☆☆☆

2017 次世代エコカー市場・技術の実態と将来展望 ～ 将来展望シリーズ

第 I 章 次世代エコカー市場の動向と展望

1. 次世代エコカー（環境対応車）の動向	1
2. 次世代エコカー業界図と市場動向	2
3. 次世代エコカー市場の動向と展望	3
(1) 次世代エコカー世界市場概況と動向	3
①電気自動車世界市場推移・予測（台数・金額）	4
②電気自動車世界メーカーシェア（台数ベース）	6
③電気自動車地域別市場推移・予測（台数）	7
④電気自動車地域別構成比率（台数ベース）	8
⑤プラグイン車世界市場推移・予測（台数・金額）	9
⑥プラグイン車世界メーカーシェア（台数ベース）	11
⑦ハイブリッド車世界市場推移・予測（台数・金額）	12
⑧ハイブリッド車世界メーカーシェア（台数ベース）	14
⑨燃料電池車世界市場推移・予測（台数・金額）	15
⑩燃料電池車世界メーカーシェア（台数ベース）	17
⑪燃料電池車地域別市場推移・予測（台数）	18
⑫天然ガス自動車世界市場推移・予測（台数・金額）	19
⑬天然ガス自動車国別・地域別シェア（台数）	20
⑭次世代エコカー別世界市場推移予測／構成推移	21
⑮次世代エコカー世界市場推移・予測（台数）	22
(2) 次世代エコカー国内市場概況と動向	23
(3) 超小型電気自動車の概要と市場動向	24
(4) 次世代商用車の概要と技術動向	25
①電気自動車国内市場推移・予測（台数・金額）	26
②電気自動車国内メーカーシェア（台数ベース）	28
③プラグイン車国内市場推移・予測（台数・金額）	29
④プラグイン車国内メーカーシェア（台数ベース）	31
⑤ハイブリッド車国内市場推移・予測（台数・金額）	32
⑥ハイブリッド車国内メーカーシェア（台数ベース）	34
⑦燃料電池車国内市場推移・予測（台数・金額）	35
⑧燃料電池車国内メーカーシェア（台数ベース）	37
⑨天然ガス自動車国内市場推移・予測（台数・金額）	38
⑩天然ガス自動車車種別・導入車別シェア	39

⑪次世代エコカー別国内市場推移予測／構成推移	40
⑫次世代エコカー国内市場推移・予測（台数）	41
4. 自動車国内外市場の動向と展望	42
(1) 世界自動車市場概況と動向	42
(2) 運転支援システムの定義と動向	45
①世界自動車市場推移・予測（台数）	46
②世界自動車メーカーシェア（台数）	47
③車種別世界自動車市場推移・予測（台数）	48
④世界商用車市場推移・予測（台数）	49
⑤世界商用車メーカーシェア（台数）	50
⑥世界自動車構成市場推移予測／構成推移	51
(3) 国内自動車市場概況と動向	53
【参考】2015年9月度国内新車総販売	54
①国内自動車市場推移・予測（台数）	55
②国内自動車メーカーシェア（台数）	56
③国内乗用車市場概況と動向	57
④国内乗用車市場推移予測／シェア（台数）	58
⑤国内軽自動車市場概況と動向	60
⑥国内軽自動車市場推移予測／シェア（台数）	61
⑦国内トラック（普通・小型）市場概況と動向	63
⑧国内普通・小型トラック市場推移予測／シェア（台数）	64
⑨国内バス（大型・小型）市場概況と動向	66
⑩国内大型・小型バス市場推移予測／シェア（台数）	67
⑪車種別国内自動車構成市場推移予測／構成推移	69
⑫国内自動車構成市場推移予測／構成推移	70
5. 電気自動車等導入補助金制度・補助事業（2016年度）	71
(1) クリーンエネルギー自動車等導入促進対策費補助金	71
(2) クリーンエネルギー車導入補助事業	74
6. 次世代エコカー国内生産・販売・保有台数（統計）	79
7. 次世代エコカー最新車種諸元表（EV・PHV・FCV）	81

第Ⅱ章 充電インフラ市場の動向と展望

1. 電気自動車用充電システム市場の動向と展望	85
(1) 電気自動車用充電システムの最新動向	85
(2) 電気自動車用充電システムの市場概況	86
①EV用充電システム市場推移・予測（台数・金額）	87
②EV用充電システム別市場推移予測（台数・金額）	89
③EV用急速充電システム市場推移・予測（台数・金額）	90

④EV用急速充電システムメーカーシェア（台数ベース）	93
⑤EV用普通充電器市場推移・予測（台数・金額）	94
2. EV用充電システム国内需要別市場予測	96
(1)EV用充電システム国内需要概要	96
(2)EV用充電システム需要別市場予測（台数）	97
（ガソリンスタンド／サービスエリア／駐車場／コンビニ／ショッピングセンター／小規模）	
3. EV用充電システムの動向と展望	100
(1)充電システムと電気自動車	100
(2)充電システムの種類と動向	101
(3)プライベート充電システム	102
(4)パブリック充電システム	105
4. 地方公共団体等の動向	106
5. 電気自動車用充電器関連資料	108
(1)EV用急速充電器・普通充電器仕様	108
(2)電気自動車普及協議会（APEV）	111
(3)チャデモ協議会（CHAdeMO）	111
(4)EV充電器規格概要（CHAdeMO・コンボ）	114

第三章 次世代エコカー用蓄電池市場の動向と展望

1. 次世代エコカー用二次電池の動向と展望	115
(1)次世代エコカー用リチウムイオン電池の最新動向	115
(2)次世代エコカー用リチウム電池の技術概要と動向	116
(3)次世代エコカー用二次電池と自動車メーカーの提携関係	118
①次世代エコカー用リチウム二次電池世界市場推移・予測	119
②次世代エコカー別リチウム二次電池世界市場推移・予測	120
③次世代エコカー用リチウム二次電池メーカーシェア（金額）	121
④次世代エコカー用ニッケル水素電池世界市場推移・予測	122
⑤次世代エコカー用ニッケル水素電池メーカーシェア（金額）	123
2. リチウム二次電池関連材料の動向と展望	124
(1)リチウム二次電池関連材料の概要と動向	124
①エコカー用リチウム二次電池関連材料世界市場推移・予測	127
②エコカー用リチウム二次電池関連材料別世界市場推移予測／構成推移	128
(2)正極材の技術・開発動向	129
(3)リチウム二次電池正極材関連メーカーの動向と展望	130
①株式会社 田中化学研究所	130
②戸田工業 株式会社	131
③日亜化学工業 株式会社	132
・エコカー用リチウム二次電池正極材世界市場推移予測／シェア	133

(4) 負極材の技術・開発動向	134
(5) リチウム二次電池負極材関連メーカーの動向と展望	135
①JFE ケミカル 株式会社	135
②日立化成 株式会社	136
③三菱化学 株式会社	137
・エコカー用リチウム二次電池負極材世界市場推移予測／シェア	138
(6) 電解質の技術・開発動向	139
(7) リチウム二次電池電解液関連メーカーの動向と展望	140
①宇部興産 株式会社	140
②セントラル硝子 株式会社	141
③三菱化学 株式会社	142
・エコカー用リチウム二次電池電解液世界市場推移予測／シェア	143
(8) セパレータの技術・開発動向	144
(9) リチウム二次電池セパレータ関連メーカーの動向と展望	145
①旭化成 株式会社	145
②住友化学 株式会社	146
③東レバッテリーセパレータフィルム 合同会社	147
・エコカー用リチウム二次電池セパレータ世界市場推移予測／シェア	148
3. 次世代エコカーキャパシタの動向と展望	149
(1) 電気二重層キャパシタの技術概要と動向	149
・エコカー用電気二重層キャパシタ世界市場推移予測／シェア	150
(2) リチウムイオンキャパシタの技術概要と動向	151
・エコカー用リチウムイオンキャパシタ世界市場推移予測／シェア	152
4. 次世代エコカー用電子部品動向と展望	149
(1) 次世代エコカー用電子部品の動向	153
(2) エコカー用電子部品・電子部品別世界市場推移／予測	154

第IV章 水素インフラ市場の動向と展望

1. 水素ステーションの動向と展望	157
(1) 水素ステーションの最新動向	157
(2) 水素燃料の概要と市場動向	159
(3) 水素社会実現への課題と検討	160
(4) 水素ステーションの概要と動向	162
(5) 水素ステーションの課題と検討	164
①水素ステーション世界市場推移予測／地域別比率	165
②水素ステーション国内市場推移・予測（拠点・金額）	166
2. 水素ステーション関連メーカーの動向と展望	167
(1) 出光興産 株式会社	167

(2) 岩谷産業 株式会社	168
(3) エア・ウォーター 株式会社	169
(4) JX エネルギー 株式会社	170
(5) 大陽日酸 株式会社	171
(6) 三菱化工機 株式会社	172
3. 水素ステーションの普及動向	173

第V章 次世代エコカー関連メーカーの動向と展望

1. 次世代エコカー国内メーカーの動向と展望	175
①いすゞ自動車 株式会社	175
②スズキ 株式会社	176
③ダイハツ工業 株式会社	177
④トヨタ自動車 株式会社	178
⑤日産自動車 株式会社	180
⑥日野自動車 株式会社	182
⑦富士重工業 株式会社	183
⑧本田技研工業 株式会社	185
⑨マツダ 株式会社	187
⑩三菱自動車工業 株式会社	188
⑪三菱ふそうトラック・バス 株式会社	190
2. 次世代エコカー海外メーカーの動向と展望	191
3. 電気自動車充電器メーカーの動向と展望	194
①菊水電子工業 株式会社	194
②九電テクノシステムズ 株式会社	195
③JFE テクノス 株式会社	196
④新電元工業 株式会社	197
⑤株式会社 東光高岳	198
⑥株式会社 高砂製作所	199
⑦ニチコン 株式会社	200
⑧株式会社 ハセテック	201
⑨パナソニック 株式会社	202
⑩富士電機 株式会社	203
⑪株式会社 安川電機	204
4. 次世代エコカー用二次電池国内メーカーの動向と展望	205
①オートモーティブエナジーサプライ 株式会社	205
②パナソニック株式会社 AIS 社	206
③日立ビークルエナジー 株式会社	207
④プライムアース EV エナジー 株式会社	208
⑤株式会社 リチウムエナジージャパン	209
5. 次世代エコカー国内外メーカーの戦略	210

第 I 章 次世代エコカー市場の動向と展望（サンプル）

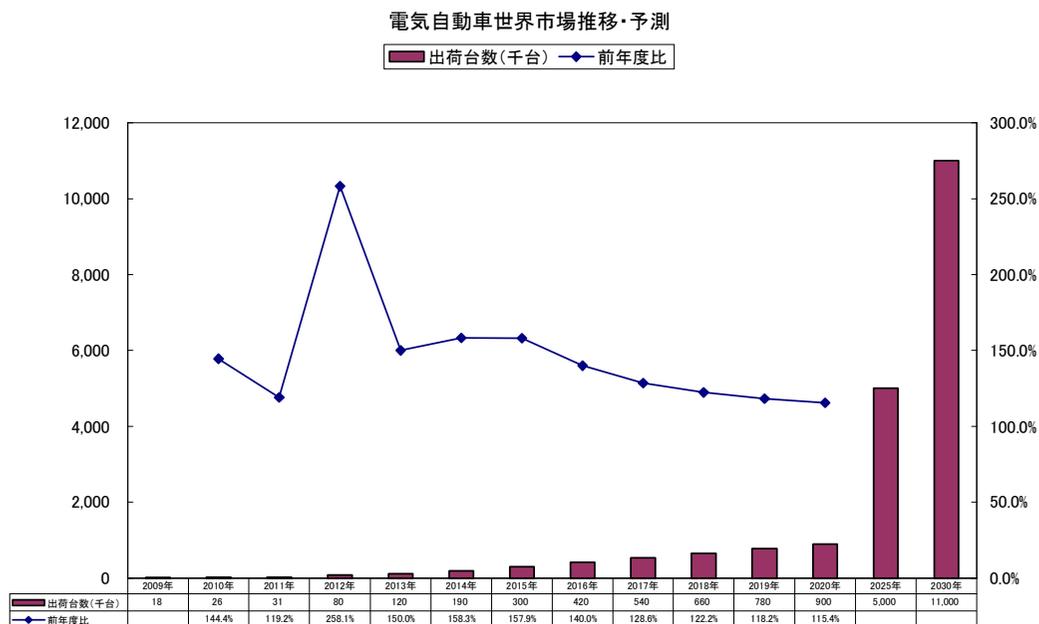
1. 次世代エコカー（環境対応車）の動向

(1) 次世代エコカー世界市場概況

全米の環境規制を先導してきた米カルフォルニア州（加州）が、電気自動車（EV）を中心とする「ZEV（排気ガスゼロ車）」の販売を促進する政策によって再び自動車産業の歴史を塗り替えようとしている。厳しい規制基準の設定で、自動車各種はEV開発強化を急いでおり、次世代のエコカーの主役の座をめぐる競争が激化しつつある。一定比率以上の ZEV 販売を義務付ける加州の規制は 2000 年代、ハイブリッド車（HV）に強みを持った〇〇〇自動車や〇〇技研工業（〇〇〇）の米国市場での躍進につながった。だが、18 年モデルからの改正では、通常の HV は ZEV から外れ、自動車大手は EV などの販売を急激に増やす必要に迫られる。ブランド力があり、EV しか販売しない〇〇〇・〇〇〇〇勢いをさらに後押しすることになると見られる。加州のほか、ニューヨークなど環境意識の高い 9 州も同様の規制強化に動いている。メーカーは、2025 年までに全販売台数のうち加州で 22%、他の 8 州で 15% ZEV にする必要がある。しかも、18 年モデルからは、充電機能がついたプラグイン型ではない従来型の HV は、ZEV とみなされなくなる。プラグイン型も ZEV で換算できる比率は小さくなっていく。加州以外の 9 州では、充電インフラが整うまで加州での販売分を州内販売の数字に組み込めた抜け道も廃止される。これまでエコカー販売の半分が売りやすい加州に集中していたが、その 1.5 倍ある他の 9 州でも普及に弾みが付く。

※ サンプルのため、以下の内容を省略

①電気自動車世界市場推移・予測（台数）あくまでサンプルです



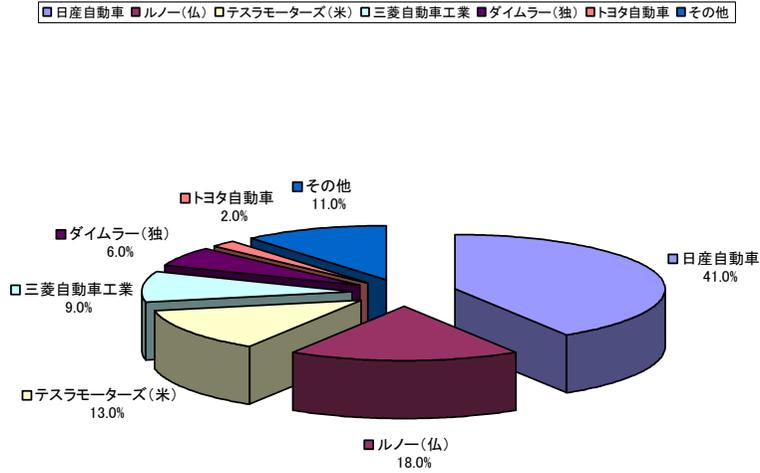
※ 日本エコノミックセンター予測

※ サンプルのため、棒グラフを省略

※ 以上、日本エコノミックセンター作成

②電気自動車世界メーカーシェア（台数ベース）あくまでサンプルです

電気自動車世界メーカーシェア 2015年



※ サンプルのため、円グラフを省略

※ 以上、日本エコノミックセンター推定を含む

第Ⅱ章 充電インフラ市場の動向と展望（サンプル）

1. 電気自動車用充電システム市場の概要と動向

(1) 電気自動車用充電システムの最新動向

①EV 充電システム販売強化

〇〇は、電気自動車（EV）や微塵搬送機（AGV）向けの充電システムの販売を強化する。複数の部品とソフトウェアを組み合わせたシステムにして提供することで、顧客の開発負担を減らし、受注層につなげる。現在数十億円のエネルギー関連システムの売上を2021年3月期に1,000億円まで増やすことを目指す。非接触で充電するシステムに注力する。

②EV 充電器の設置事業者支援

同社や、〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇は、国内でEVやプラグインハイブリッド車（PHV）の普及に向けて、充電器の設置事業者に最大190万円の資金を補助する支援策を発表。事業者の負担を軽減し、充電インフラ網の拡大を促す。EVなどの利用者から料金を集め充電サービスを展開する組織を設ける。8時間程度でEVを充電できる「普通充電器」で1基あたり40万円、30分程度で充電できる「急速充電器」で同190万円を上限に設置費用を補助。既存のサービス会社と連携し1枚のカードでどこでも充電できるサービスを検討する。

③カルフォルニアでEV 実証実験

同社と〇〇は、米カルフォルニア州で電気自動車（EV）の実証実験を始めた。充電インフラが十分でなかった州北部の幹線道路沿いに最大50基の急速充電器を設置。従来は都市内の移動にとどまることが多かったEV利用者の行動範囲がどのように広がるかを検証。実験は2015年にカルフォルニア州の経済促進知事室と基本協定を結んだNEDOから委託を受けた。期間は20年9月まで。日産は現地の充電インフラ事業者と連携で充電器を設置する。

③壁掛け型充電器

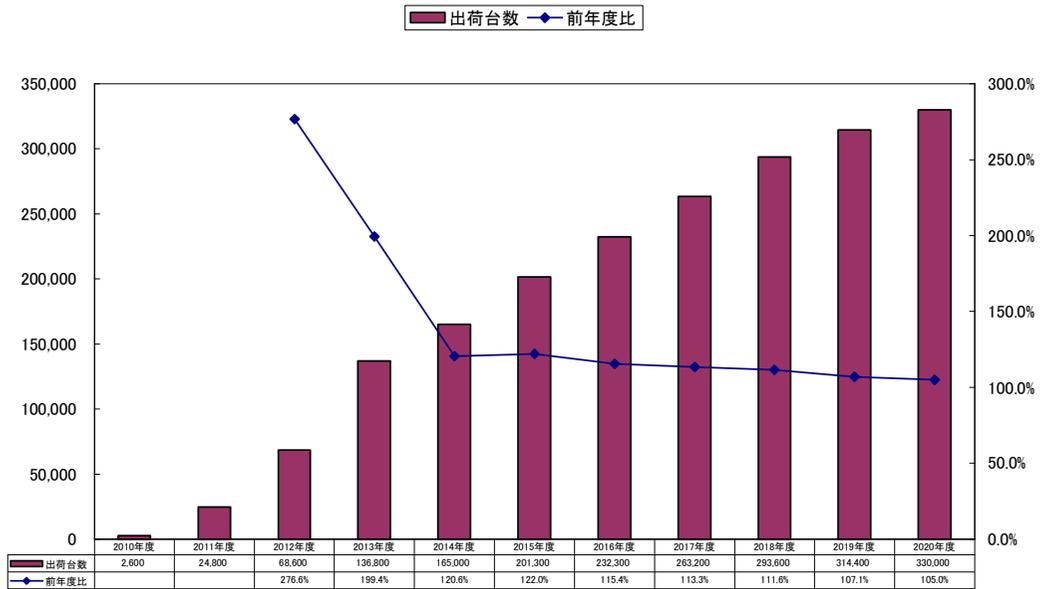
同社は、2015年4月に壁掛け型充電器「ホンダパワーマネージャー（HEH55）を発売、電気自動車（EV）やハイブリッド車（HV）向け。充電器として電気を供給するだけでなく、燃料電池車（FCV）や太陽光発電などさまざまな装置から給電を受けて蓄電池に貯める事ができる。自動車と公共施設や家庭をつなぎ、災害時の電力供給など向けの需要を見込んでいる。HEH55の特徴は電力会社の系統電源に加えて、様々な電源と接続できることである。

④リモコンとトランスユニット標準設備

同社は、室内リモコンとトランスユニットを標準装備し、利便性、設置拡張性を大幅に高めたEV用の家庭用充電・給電システム「V2Hシステム」EVパワー・ステーションの高機能モデルを開発した。V2HシステムEVパワー・ステーションの第3弾。価格は、78万円（税別）。次世代自動車振興センターの次世代自動車充電インフラ整備促進事業による補助金対象機種に申請した。ニチコン亀岡で生産している。7インチ大型カラー液晶タッチパネル。

①EV 用充電システム市場推移・予測（全体・台数）あくまでサンプルです

電気自動車用充電システム市場推移・予測 単位:台



※ 日本エコノミックセンター予測

※ サンプルのため、棒グラフを省略

※ 以上、日本エコノミックセンター作成

第Ⅲ章 次世代エコカー用蓄電池市場の動向と展望（サンプル）

1. 次世代エコカー用二次電池の動向と展望

(1) 次世代エコカー用リチウムイオン電池の最新動向

全米の環境規制の流れを先導してきた米アルフォルニア州（加）が、電気自動車（EV）を中心とする ZEV（排スゼロ車）の販売を促進する政策によって再び自動車産業の歴史を塗り変えようとしている。厳しい規制基準の設定で、自動車各社は EV の開発強化を急いでおり、次世代エコカーの主役の座をめぐる競争が激化しつつある。そのため、エコカーに使用する自動車用リチウムイオン電池（LiB）の需要が伸びていく。

①〇〇のリチウムイオン電池の動向

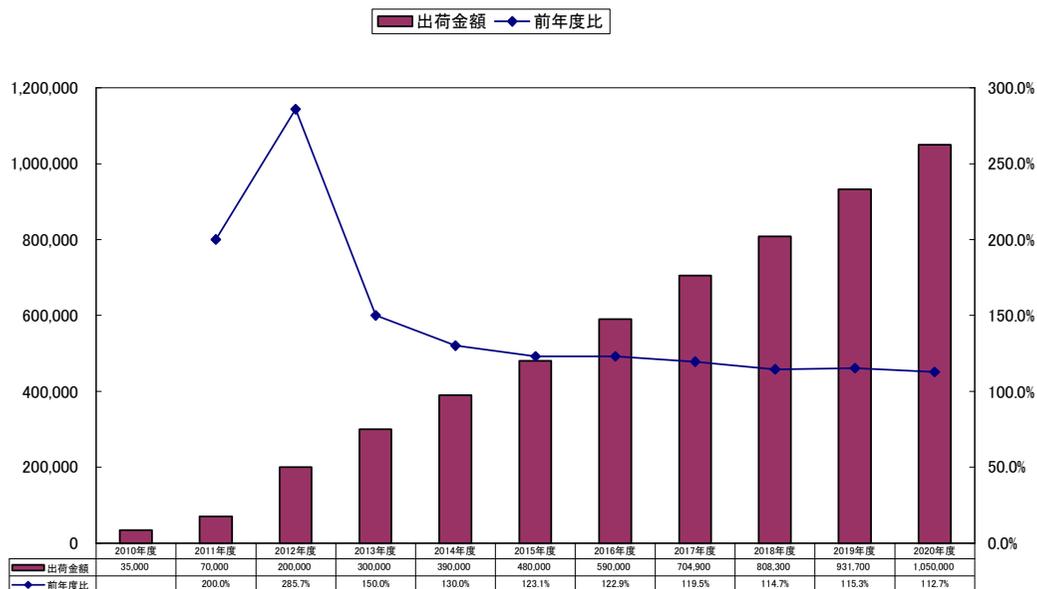
〇〇政府は、EV や PHV の普及台数を 2015 年までに 50 万台、20 年までに累計 500 万台にする計画を示している。しかし、現状は充電設備の不足などから販売が伸び悩み、〇〇〇工業協会などによれば、15 年中国の新車販売台数は、前年比 4.7% 増の 2,459 万台としている。しかし、補助金政策や購入税免除など普及策を次々と講じているほか、さらなる追加政策も囁かれており、環境対応車の巨大市場になる見込みである。

それに続けて、LiB 分野で攻勢を掛けているのが〇〇などである。サムスン SDI は、中国・西安に工場建設を計画。中国の自動車部品メーカーと 14 年 6 月に合弁会社を設立し、サムスン電子が中国・西安で運用している半導体工場隣接地に新工場を建設した。

※ サンプルのため、以下の内容を省略

①次世代エコカー用リチウム二次電池世界市場推移・予測（さくまでサンプルです）

次世代エコカー用リチウム二次電池世界市場推移・予測 単位:百万円



※ 日本エコノミックセンター予測

※ サンプルのため、棒グラフを省略

※ 以上、日本エコノミックセンター作成

第IV章 水素インフラ市場の動向と展望（サンプル）

1. 水素ステーションの動向と展望

(1) 水素ステーションの最新動向

①〇〇〇〇株式会社（コンビニに水素ステーション）

同社とセブンイレブン・ジャパンは、2016年2月に国内初のコンビニエンスストア併設型水素ステーションを東京・大田区池上と愛知県刈谷市の2ヶ所でオープン。身近なコンビニに水素STを併設することで、利便性の向上を図るとともに、水素エネルギーをより身近に感じてもらうことを狙う。両社は今後3年以内にこうした店舗併設型水素STを10～20ヶ所で開設する方針。両社は、エネルギーの有効性について効果的にPRできると判断した。

②〇〇〇〇株式会社（水素ステーション用）

同社は、燃料電池車（FCV）に水素を供給する水素ステーション向けに、大きさを従来型の100分の2程度と、大幅に小型化した熱交換器を開発した。微細な溝を刻んだステンレス板を積み重ねた多重構造を採用することで、超小型化を実現すると同時に冷却効率も高めた。熱交換器は、昇圧によって温度が上昇した水素の冷却に使用する装置である。設置コストを低減できるため、水素ステーションの普及拡大を促す技術として期待されている。

③〇〇〇〇株式会社（パッケージ型水素ステーション）

同社は、国内ガス業界でナンバー〇〇の産業ガスメーカーであり、パッケージ型水素ステーション事業を加速する。従来型の約半分というコスト競争力を武器に、パッケージ型水素ステーション「ハイドロシャトル」を製品化。ガソリン元売り会社、都市ガス会社、石油会社などへ販売を目指す。設置面積は9×2×高さ2.5mと最小限で済み、車に搭載して移動もできる。定置型では、水素ステーションとして水素を製造・供給する方式に対応。

④〇〇〇〇株式会社（埼玉に水素ステーション）

同社は、埼玉県で水素ステーションの営業を開始した。さいたま市と計画段階から連携、15年1月から建設、同社として3ヶ所目。同県内では初めてで、次世代エネルギーと位置付けられる水素や燃料電池自動車（FCV）の普及につなげる。東ガスの「浦和水素ステーション」の敷地面積は約1500㎡で、水素製造装置や水素圧縮機、水素出荷設備などを備える。現地で都市ガスから水素を製造してFCVに充填できる「オンサイト方式」となっている。

⑤〇〇〇〇株式会社（水素ステーション顔所式）

同社は、さいたま市桜区に開設した「浦和水素ステーション」の開所式を行った。関係者や地域住民など50人が出席。地域住民への説明会、対話を重ね、要望を取り入れて設計変更するなどして水素エネルギーへの不安を解消、完成させた。浦和水素ステーション（ST）は、同社CNG（圧縮天然ガス）スタンド「浦和エコ・ステーション」に併設、16年2月から営業開始。練馬水素ST（東京・練馬区）、千住水素ST（東京・荒川区について3番目）。

⑥〇〇〇〇他（水素ステーション設置）

同社や〇〇〇〇〇〇ど産学12組織は、水素ステーションの設置コスト半減に向けた研究開発に着手した。新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が関連する研究開発テーマ7件を採択したと発表。液化水素から直接圧縮水素に変える技術や、高価な素材の使用量を抑える蓄圧器と呼ばれる装置などの開発に2017年度までに取り組む計画している。

第V章 次世代エコカー関連メーカーの動向と展望（個票サンプル）

1. 次世代エコカー国内メーカーの動向と展望

会社名	〇〇〇〇 株式会社
本社	
会社概要	
業績（連結）	
売上構成	
生産拠点	
担当／販売	
研究／開発	
HV 販売	

《自動車世界/国内販売台数予測》

単位：千台

	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
世界市場					
前年度比					
国内市場					
前年度比					

《車種世界販売台数予測》

単位：千台

	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
HVトラック					
PHV					
EVバス					
FCV					
合計					

《車種国内販売台数予測》

単位：千台

	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
HV					
PHV					
EVバス					
FCV					
合計					

※以上、日本エコノミックセンター推定を含む

【事業動向】

〇〇〇〇は、新型の路線バス「エルガ」を発売している。全面改良は15年ぶりで、高齢者の乗客に配慮した設計。年間で600台の販売を目指していく。同社は、小型トラック「〇〇〇〇」のハイブリッド車を改良し、2015年4月に発売。同車は、モータ駆動のみで走行することで騒音に配慮した静かな走行ができるEVモードを追加。エンジンの改良に加え、省燃費走行をサポートする「スマートグライド+e」のサポート領域を拡大している。

2017 年版
次世代エコカー市場・技術の実態と将来展望

発行: 2016年12月16日 第1版
定価: 本体価格70,000円+消費税
発行人: 石澤 宜之
編集: 株式会社 日本エコノミックセンター 市場調査部
発行所: 〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-11-5 3F
株式会社 日本エコノミックセンター
JAPAN ECONOMIC CENTER CO., LTD
TEL: 03-3808-0611(代)
FAX: 03-3808-0617
URL: <http://www.j-economic.co.jp>
E-mail: info@j-economic.co.jp

● 《禁無断コピー・転載》 乱丁、落丁の場合はお取り替え致します。

Copyright(C) 2014 Japan Economic Center, Co., LTD.

Printed in Japan 2016

ISBN978-4-907908-66-9 C3060 ¥70000E

△▼△▼ 主要調査レポートご案内(最新版) ▼▲▼▲

～ 市場予測・将来展望シリーズ - 創エネ・蓄エネ・省エネ関連 ～ 好評発売中!

※ 価格は、すべて税抜きです。

新刊 2017 次世代エコカー市場・技術の実態と将来展望 ～ 次世代エコカー市場実態/予測・インフラ・蓄電池	B5判・CD-ROM 210頁 ¥70,000～¥110,000 2016年12月刊
2017 燃料電池市場・技術の実態と将来展望 ～ 燃料電池市場予測・燃料電池車・関連部材/技術	B5判・CD-ROM 210頁 ¥70,000～¥110,000 2016年11月刊
2017 コンデンサ市場・部材の実態と将来展望 ～ コンデンサ市場実態/予測・関連部材・応用製品	B5判・CD-ROM 210頁 ¥70,000～¥110,000 2016年10月刊
2016 スマートハウス市場の実態と将来展望 ～ スマートハウス市場実態/予測・HEMS・関連機器	B5判・CD-ROM 200頁 ¥70,000～¥110,000 2016年9月刊
2016 リチウムイオン電池市場の実態と将来展望 ～ リチウム二次電池市場実態/予測・関連部材/技術	B5判・CD-ROM 210頁 ¥70,000～¥110,000 2016年8月刊
2016 スマートグリッド市場の実態と将来展望 ～ スマートグリッド市場実態/予測・構成市場/技術	B5判・CD-ROM 200頁 ¥70,000～¥110,000 2016年7月刊
2016 EMC・ノイズ対策市場の実態と将来展望 ～ EMCノイズ対策市場実態/予測・関連技術・応用製品	B5判・CD-ROM 200頁 ¥70,000～¥110,000 2016年6月刊
2016 スマートコミュニティ市場の実態と将来展望 ～ スマートコミュニティ市場予測・関連市場/技術	B5判・CD-ROM 200頁 ¥70,000～¥110,000 2016年5月刊
2016 蓄電池・キャパシタ市場実態と将来展望 ～ 蓄電デバイス市場実態/予測・関連部材/技術	B5判・CD-ROM 200頁 ¥70,000～¥110,000 2016年4月刊
2016 HEMS市場・関連機器の実態と将来展望 ～ HEMS・BEMS市場実態/予測・周辺機器・デバイス	B5判・CD-ROM 210頁 ¥70,000～¥110,000 2016年3月刊
2016 車載用・産業用蓄電池市場の実態と将来展望 ～ 大容量(二次電池・キャパシタ)市場実態予測・部材	B5判・CD-ROM 210頁 ¥70,000～¥110,000 2016年2月刊
2016 太陽光発電市場・技術の実態と将来展望 ～ 地産地消・太陽光発電市場実態/予測・関連部材	B5判・CD-ROM 210頁 ¥70,000～¥110,000 2016年1月刊
2016 二次電池市場・技術の実態と将来展望 ～ 次世代・二次電池市場/予測・関連部材・応用製品	B5判・CD-ROM 210頁 ¥70,000～¥110,000 2015年12月刊

各調査レポートのお問い合わせ・お申し込みは

創業 50 周年 (Since 1966)

企画・市場調査・出版・資産設計

株式会社 日本エコノミックセンター

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1丁目11番5号 日本橋吉泉ビル3F

新刊 2017 次世代エコカー市場・技術の実態と将来展望（第一版）

～ 次世代エコカー（ZEV）市場実態/予測・インフラ設備・蓄電池 ～

FAX 購入申込書

申込日：201 年 月 日

※ 以下の定価はすべて税抜き価格で、別途消費税が加算されます。

購入される商品の口にチェックして下さい

- B5 判+CD タイプ(PDF ファイル) 定価:90,000 円
- プレミアム CD(PDF+Excel ファイル) 定価:90,000 円
- B5 判 210 頁 定価:70,000 円
- CD タイプ 定価:70,000 円
- B5 判+プレミアム CD 定価:110,000 円

※ 上記以外に、A4 タイプ、章単位 CD などニーズに対応した商品を提供しております

☆ 企画書・目次・サンプル(PDF)は、HP <http://www.j-economic.co.jp> でご確認ください。

— お問い合わせ、お申し込みは、Tel (03-3808-0611) / Fax (03-3808-0617) まで

※ 下記の担当部署まで連絡をお願いいたします。(平日:9:15 ~ 16:45)

御社名		TEL :
所在地	〒	FAX :
部署名		御名前
御役職		
通信欄		Mail

※ ご請求書は、資料発送時に同封致します。ご記入頂きました個人情報は、新刊案内（メール含む）のご案内をさせて頂く場合がございます。お客様の個人情報を第三者に提供する事はございません。ご注文は弊社 HP から注文できます。

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町 1-11-5 日本橋吉泉ビル 3F

株式会社 日本エコノミックセンター 市場開発部 / 市場調査部

